

長岡京市議会
議員政策研究会
長岡京市議会 I C T 化推進分科会
調査研究報告書

平成31年3月19日

1. 調査研究項目及び手法

(1) 調査研究項目

長岡京市議会のICT化推進について

(2) 調査研究項目の具体的内容

長岡京市議会では、議会改革としてこれまでに様々な取り組みを進めてきたところであるが、ICT化については全国の先進自治体議会と比較すると、まだまだ十分なものとは言えないため、前期の議会運営委員会において検討を重ねてきたところである。

そして、今期の議会運営委員会から、長岡京市議会のICT化推進については、個別に検討を進める必要があるとの考えから、調査研究とその具体化についての検討を長岡京市議会政策研究会に委ねられたことから、前期議会運営委員会において取りまとめられた「議会ICT化に向けたタブレットの導入」検討報告書を踏まえつつ、長岡京市議会ICT化推進分科会を立ち上げて、長岡京市議会のICT化推進について、どのように進めていくべきかを論議するために、調査研究を進めたものである。

(3) 研究手法

①意見交換

長岡京市議会のICT化推進について委員間で意見交換を行った。

②実態調査

前期議会運営委員会においてまとめられた「議会ICT化に向けたタブレットの導入」検討報告書について意見交換を行った。

③先進地事例調査

タブレットを近年導入した兵庫県芦屋市議会の「議会ICT化の取り組み」について視察調査した。

④報告書の作成

これまでの分科会での調査結果や議論を踏まえて、調査研究報告書を作成した。

2. 委員名簿

議員政策研究会	長岡京市議会ICT化推進分科会
分科会会長	上村真造
分科会副会長	進藤裕之
委員	広垣栄治

委	員	西	條	利	洋
委	員	寺	嶋	智	美
委	員	富	田	達	也
委	員	小	原	明	大
委	員	三	木	常	照
委	員	富	岡	浩	史
委	員	山	本		智

3. 調査研究の実施経過

1	平成30年 3月 8日	・分科会正副会長の互選について ・今後の進め方について
2	平成30年 3月23日	・検討報告書の確認について ・先進地視察調査について
3	平成30年 6月22日	・先進地視察調査について
4	平成31年 3月 7日	・分科会の運営について
5	平成31年 3月19日	・報告書（案）について

4. 調査研究のまとめ

本分科会では、平成30年3月から5回にわたって会議を開催し、前期議会運営委員会において取りまとめられた「議会ICT化に向けたタブレットの導入」検討報告書（資料参照）を踏まえ、これからの長岡京市議会のICT化の推進について、どのように行っていくべきか意見交換を重ねてきた。また、兵庫県芦屋市議会への先進地視察調査（資料参照）をはじめ、他自治体議会の事例研究なども行いつつ、議論を深めてきた。

これらの各会議での意見交換や、兵庫県芦屋市議会での先進地視察調査において出された、各委員からの意見については以下の通りであった。

<分科会の進め方について>

- ・新庁舎の建て替えを待たずに、例えばタブレットや委員会のライブ中継など、具現化できる形が残せるような分科会の取り組みを進めていってもらいたい。

<「議会ICT化に向けたタブレットの導入」検討報告書について>

- ・タブレットとクラウドの導入は分けるべきで、クラウドの導入がメインではないか。
- ・過去に議員に配布された個人用パソコンについて、その費用対効果はどうだったのか。
- ・セキュリティの面での課題はないのか。

- ・ I C T化について費用をかけて導入することで、今より市民の皆さんにメリットがあるということを、はっきり言えないといけないのでは。

<兵庫県芦屋市議会の先進地視察調査を受けて>

- ・ 議会の I C T化については、新庁舎に合わせて実施する方がいい。
- ・ 理事者側と双方向で取り入れたほうがいい。
- ・ タブレットなどを使いこなせるようになるには、新庁舎ができるまでに進めたほうがいい。
- ・ 人件費など具体的に削減される数値が出ると、市民の皆さんにも納得感がある。
- ・ W i - F i など通信環境の整備を考慮すると、今進めるべきではなく、新庁舎建替時が一番効率いい。
- ・ できるところからどんどん取り組んでいき、行政側の I C T化の検討とも合わせて、タブレットの導入やペーパーレス化・ I C T化を進めるのがいい。
- ・ 導入コストに対して見合うのかの検証が必要。
- ・ 議員の方も導入に際して、使いこなすという心構え的なものを含めて実施すべき。
- ・ 導入コストに加えて、ランニングコストがどうなるかの検討が必要。
- ・ ペーパーレス議会の実現を進めていくべき。
- ・ 基本的に電子化することで生産性はあがる。
- ・ ただし、生産性については、具体的に効果金額として数値化することは難しい。
- ・ タブレットに関しては、使いこなすことで、いろいろな情報を市民の皆さんに提供していけるという点では、早期に実現する方がいい。

これまでの会議における各委員同士の意見交換や、他先進地議会の情報収集を踏まえた検討を進めていく中で、今後の分科会の運営については、前期の長岡京市議会議員政策研究会庁舎等再整備研究分科会から、平成29年9月に市長に提出された「長岡京市庁舎等再整備に向けた提言」を踏まえた、新庁舎建替の基本設計(案)が策定された現状を鑑みて、新庁舎におけるハード面整備と市側の新庁舎における I C T化対応状況が明確化されるのを受けて、調査研究を進めていくべきではないかと考えるところである。

そこで、長岡京市議会の I C T化推進についての調査研究については、新庁舎の実施設計が明確化する時期に、再度分科会を立ち上げることとし、この報告書をもって一旦終了する。